

平成26年度 資料展

つたえる・つながる ～阪神・淡路大震災20年～

主催：神戸大学附属図書館

協力：阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

「阪神淡路20年－1.17は忘れない－」参加事業



ボランティア活動



家族の絆



「神戸の壁」とひまわり

撮影
(背景)和田幹司
(右上・中心)前田耕作
(左下)大木本美通

【入場無料】

第1期 平成26年10月17日(金)～11月16日(日)

第2期 12月24日(水)～平成27年1月29日(木)

(ただし、11月3日・12月28日～1月4日・12日・17日・18日は休館、1月16日は17:00で閉館)

会場：神戸大学 社会科学系図書館【2階 展示コーナー・3階 震災文庫】
時間：展示コーナー：月～金／8:45～21:30 土～日／10:00～19:00
震災文庫：平日 11:00～17:00
交通：阪神「御影」・JR「六甲道」・阪急「六甲」の各駅から
市バス36系統「神大正門前」下車 キャンパス内を北へ徒歩約5分



神戸大学附属図書館 社会科学系図書館
〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1
お問合せ先：情報リテラシー係
TEL：078-803-5313

神戸大学附属図書館 平成26年度 資料展

つたえる・つながる ～阪神・淡路大震災20年～

神戸大学は、教育・研究とならぶ第三の使命として、地域・社会との連携協力にも力を注いでいます。附属図書館においても、所蔵する貴重な資料を多くの皆様にご覧いただきたいと考え、平成16年度から展示会活動をはじめ、今年で11年目となりました。

本年度は「つたえる・つながる～阪神・淡路大震災20年～」と題して開催します。発生から20年を迎え、震災を経験していない世代が多くなった今、改めて当時の被害や様子を広く「つたえる」と共に、未来へと、人々へと「つながる」ために、今も懸命に行われている様々な取り組みをご紹介します。

神戸大学附属図書館「震災文庫」(<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/eqb/>)

被災地の中に位置する大学図書館の責務として、震災後間もない平成7年5月から関係資料の収集・保存活動を始め、同年10月30日「震災文庫」として公開を開始しました。現在も収集を続けています。皆様からの資料提供をお待ちしております。



崩れた国道43号岩屋高架橋

1. 神戸で何が起きたか

淡路島北部を震源地として広範な地域を襲った震災は、6,400名を超える死者、25万棟に及ぶ家屋損壊など、甚大な被害をもたらしました。神戸で何が起き、震災でどう変わったのか。直後の様子を伝える写真のほか、年表や手記などを通じて、当時を振り返ります。

2. 神戸大学と震災

震災では、神戸大学・神戸商船大学(現・海事科学部)も大きな被害を受けました。当時の大学および附属病院の被害状況や、学内に設置された避難所の様子、学生・教員による被災者への救援・防災活動、その後の復興に向けての取り組みなどをご紹介します。



国際・教養系図書室の倒壊した書架

3. 震災文庫－成長の軌跡と舞台裏－

平成7年の公開以来、「震災文庫」は今日に到るまで、市民の皆様や様々な機関からの支援を受けながら、成長を重ねています。その軌跡をご紹介しますと共に、舞台裏でどのような努力が積み重ねられてきたのか、資料や文書などを交えながら明らかにします。



「震災文庫」公開時のポスター

4. …そして現在

震災から20年が経過した現在、我々はその惨禍から何を学んだのでしょうか？ その経験をどのように生かし、記憶を語り継ごうとしているのでしょうか？ 防災・教育・ボランティア・イベントやモニュメントなど、様々な視点から、現在も続けられる未来へ向けての取り組みをご紹介します。



被災地に植えられた苗(灘区)